



台灣山葉機車工業股份有限公司

Majesty

YP125FI/YP125E



OWNER'S MANUAL

お乗りになる前に必ずお読み下さい。

この度は、YAMAHA Majesty125(YP125FI)を
お買い上げいただき、ありがとうございます。

はじめに

このマニュアルでは、オートバイの正しい取り扱い方法、安全な運転の仕方、点検整備、および簡単なメンテナンスについて説明してあります。

マニュアルに関する注意事項

- ・お乗りになる前に必ず本書をお読み下さい。
- ・オートバイ本来の使い方および本書に記載されている以外の使い方は、しないで下さい。
- ・このマニュアルの本文中に記載されている「▲必ず守りましょう」「▲警告」「△注意」「要点」の各項目では、特に重要な内容を示してあります。必ず読んでから操作、作業に取りかかって下さい。
- 各アイコンで示された項目は、それぞれ次の意味を持っています。

▲警告	この項目の内容を守らないと、生命にかかわるケガ、あるいは重大なケガにつながるおそれがあります。
△注意	この項目の内容を守らないと、ケガや事故、車両の破損につながるおそれがあります。
要 点	車を操作する上で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なこと等について記載しています。

- ・仕向け地、仕様の変更などにより、本書の内容やイラスト、写真が実車と異なる場合がありますので、ご了承ください。
- ・この車の保証内容については、車のお買い上げ時にお渡しした「定期保養記録表・保養手冊」に記載されています。本書と併せて、よくお読み下さい。

目次	
はじめに	1
マニュアルに関する注意事項	1
▲必ず守りましょう	4
◇運転する前に…4	
◇安全運転のために…4	
◇駐車するときは…5	
◇車の整備について…5	
◇環境保護について…5	
◇ID番号を控える…6	
各部位の配置	7
メーター、インジケータランプ	9
◇名称と機能…9	
各スイッチの使い方	13
◇メインスイッチ…13	
◇左ハンドルスイッチ…14	
◇右ハンドルスイッチ…14	
各装備の使い方	15
◇ステアリングロック…15	
◇シート…16	
◇フロントトランク…17	
◇バンクセンサー装置…17	
◇サイドスタンド…17	
◇イモビライザー（盗難防止装置）…18	
◇ブレーキ…18	
◇キャタライザー…19	
◇キャニスター…19	
燃料の補給	20
運転操作	21
◇エンジンをかける前に…21	
◇エンジンのかけ方…22	
◇エンジンの止め方…23	
◇メインスタンドの立て方…23	
◇ならし運転…23	

駐車時の注意	24
日常点検	25
◇日常点検の実施について…25	
◇日常点検の項目…25	
●ブレーキ液量の点検…25	
●ブレーキレバーの遊びの点検…25	
●タイヤの点検…26	
●エンジンオイル量の点検…27	
定期点検	28
◇初回点検について…28	
◇定期点検の実施について…28	
定期交換部品について	29
簡単なメンテナンス	30
◇ブレーキレバーの距離調整…30	
◇ブレーキパッド、シュー点検…31	
◇ブレーキ液の補充…31	
◇冷却水の補給と交換…32	
◇エンジンオイルとフィルター交換…32	
◇スロットルケーブルの遊び調整…34	
◇アイドル調整…35	
◇エアクリーナーエレメント交換…35	
◇ベルトフィルターエレメントの清掃…36	
◇ミッションオイル交換…36	
◇リアサスペンションの調整…37	
◇シートバックレストの調整…37	
◇バッテリー…38	
◇ヒューズ…39	
お車のお手入れ	40
◇洗車…40	
◇ウインドスクリーンやプラスチック製部品などの取り扱い…40	
◇アルミホイールのお手入れ…41	
主要諸元	42

▲必ず守りましょう

この章では、お車を日常使用する上で知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことをまとめてあります。道路を通行するときは、交通ルールを守るのはもちろん、それ以外にも他の人々が安全に通行できるように配慮することが、運転者としての社会的責任でもあります。以下の内容を必ず守って、安全運転およびオートバイの操作を心掛けて下さい。

◇運転する前に

- 日常点検を実施して下さい。
 - ・また、6ヶ月、12ヶ月毎に定期点検も忘れずに受けて下さい。
- エンジンは風通しのよいところでかけて下さい。
 - ・排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきった車庫の中など風通しの悪い場所でエンジンをかけたり、暖機運転をしないで下さい。
- ガソリンの補給時は、火気厳禁です。
 - ・必ずエンジンを止めて下さい。
 - ・火気を近づけないで下さい。
- オクタン価91以上（レギュラー）の無鉛ガソリンを使用して下さい。
 - ・粗悪なガソリンや有鉛ガソリンを使用すると、エンジンが損傷する恐れがあります。
 - ・オクタン価95以上のハイオクガソリンの使用はお勧めできません。

◇安全運転のために

- この車の乗車定員は、2名です。
 - ・定員よりも多い人数での乗車は、操縦性が損なわれ、転倒や事故の原因となる上、法律でも禁止されています。絶対にしないで下さい。
 - ・2輪免許を取得してから1年未満の方が運転される場合は、2人乗りはできません。
- 正しい服装で乗車しましょう。
 - ・ヘルメットを必ず着用しましょう。頭にしっかり合ったS、SGまたはJISマークのある2輪車用ヘルメットをかぶり、あごひもをしっかりと締めましょう。
 - ・グローブ、ゴーグルなどの保護具も着用するように心掛けましょう。
 - ・明るく目立つ色の動きやすい服装で、身体の露出が少ないものを着用しましょう。疲労を少なくし、万一の時に身体を保護します。
 - ・すそが広がったズボンや袖口の広い服は、ブレーキ操作のじゃまになり、思わぬ事故の原因となりますので、避けて下さい。
 - ・運転操作のしやすい靴をはいて下さい。
- 荷物はしっかりと固定しましょう。
 - ・荷物を積むと、積まないときに比べて操縦性が変わります。
 - ・荷物はしっかりと固定し、積みすぎないように注意しましょう。

◇駐車するときは

- エンジン回転中や停止直後は、マフラー、エンジンなどに触らないで下さい。
 - ・熱くなっており、ヤケドをするおそれがあります。
 - ・他の人が触れない安全な場所に駐車しましょう。
 - 水平でしっかりした地面の場所に駐車しましょう。
 - 車から離れるときは、必ずステアリングロックをかけ、キーを抜いてお持ち下さい。
- ### ◇車の整備について
- 違法改造はやめましょう。
 - ・違法改造をすると車の安全性が低下して、重大な事故や故障の原因となったり、他人に迷惑をかけます。
 - ・法律でも禁止されていますので、絶対にしないで下さい。
 - ・改造をすると、保証が受けられないことがあります。
 - 自己流のエンジン調整や部品の取り外しはしないで下さい。
 - ・エンジン調整は、最寄りのヤマハ又はバイクショップにお任せ下さい。

◇環境保護について

- 将来廃車される場合やバッテリー、廃油などの廃棄処理をされる場合は、環境保護のため最寄りのヤマハ又はバイクショップにご相談下さい。
 - ・バッテリー、廃油および車などを不適当な方法で廃棄すると、法律により罰せられることがあります。

> ID番号を控える

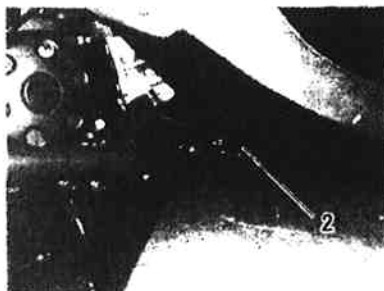
▶エンジンNo.やフレームNo.をメモしておき、
パーツ注文時や万一の盗難時に役立てて
下さい。

<エンジンNo.の打刻位置>



1. エンジンNo.

<フレームNo.の打刻位置>



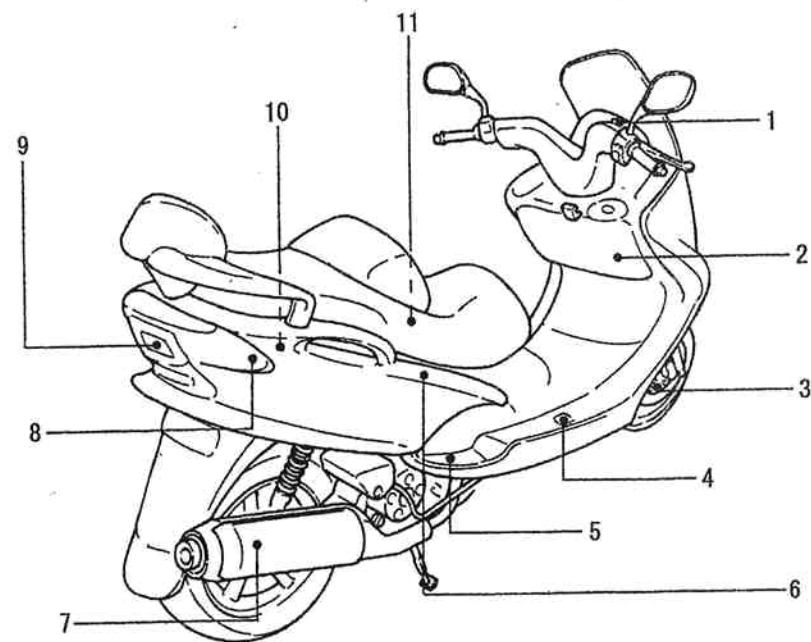
1. フレームNo.

要点

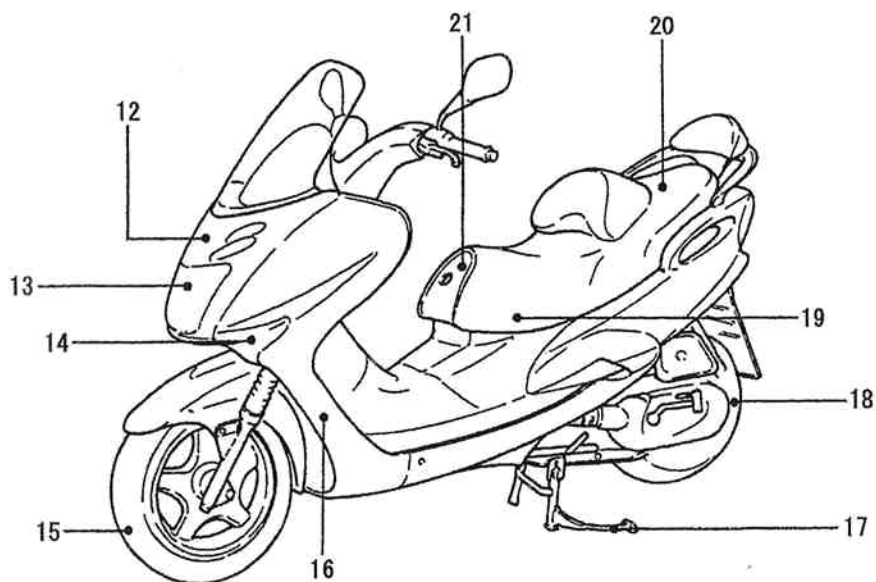
YP125FIは、フレームNo.打刻がない為、
エンジンNo.により登録を行います。

各用品の配置

◇各部の名称



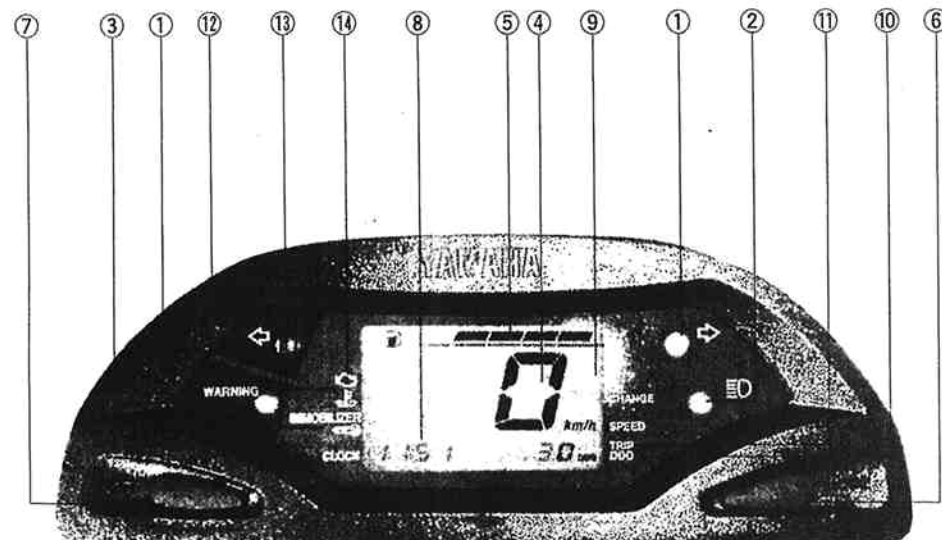
- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1. フロントブレーキマスターシリンダー | 7. マフラー |
| 2. フロントトランク | 8. リアターンシグナル |
| 3. フロントブレーキディスク | 9. テールランプ/ブレーキランプ |
| 4. 冷却液リザーバータンク | 10. トランクボックス |
| 5. スパークプラグ | 11. バッテリー/ヒューズ |
| 6. ヒューズボックス | |



- 12. ヘッドライトカウル
- 13. ヘッドライト
- 14. フロントターンシグナル
- 15. フロントタイヤ
- 16. 冷却液タンク
- 17. メインスタンド
- 18. リアタイヤ
- 19. ヘルメット固定用ワイヤー
- 20. シート
- 21. 燃料給油口

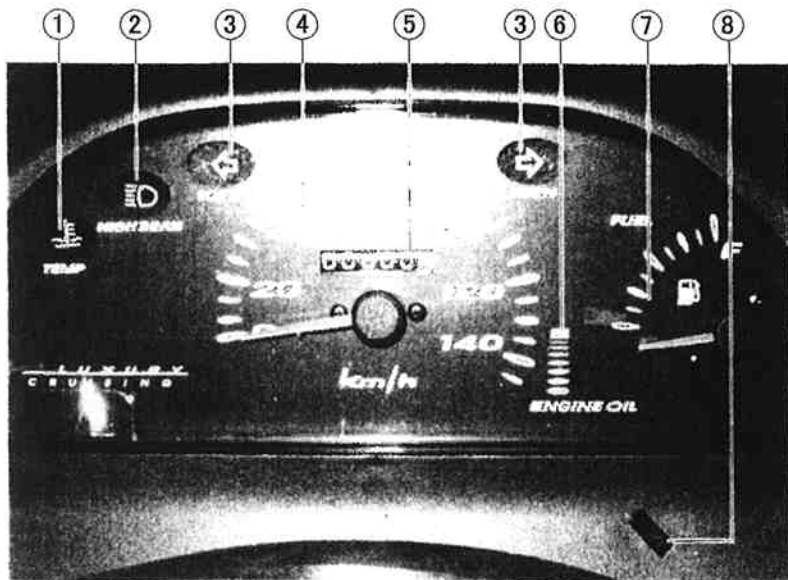
メーター、インジケータランプ

◇名称と機能
〈YP125FI〉



- 1. ターンシグナルインジケータ
- 2. ハイビームインジケータランプ “”
- 3. ワーニングランプ
- 4. スピードメーター
- 5. 燃料計
- 6. MODE (モード切替え) ボタン
- 7. SET (設定) ボタン
- 8. 時計
- 9. エンジンオイル交換指示 “”
- 10. オドメーター
- 11. トリップメーター
- 12. イモビライザー作動灯 “”
- 13. 水温警告灯 “”
- 14. エンジン警告灯 “”

<YP125E>



1. 水温警告灯
2. ハイビームインジケータ
3. ターンシグナルインジケータ
4. スピードメーター


5. オドメーター
6. エンジンオイル交換指示灯
7. 燃料計
8. リセットスイッチ


- ターンスイグナルインジケータ
“⇐”・“⇒”
ターンスイグナルスイッチが左又は右にセ
ットされている時に点滅します。
- ハイビームインジケータ “≡”
ヘッドライトをハイビームにしている時
に点灯します。
- ワーニングランプ (赤)
フューエルインジェクション、イモビラ
イザー又は冷却系統に故障が生じた場合
に点滅します。
- スピードメーター
走行スピードがデジタルで表示されます。
- 燃料計
バーグラフで燃料タンク内のガソリン量
を表示し、満タン (8リッター) の時は
5本が点灯します。燃料不足の警告灯
“⛽” が点滅したら、早めに給油を行っ
て下さい。
- MODE (モード切替え) ボタン
MODEボタンを3秒以内の間隔で操作す
ると、ODO (累計走行距離)、TRIP (ト
リップ)、OILCHANGE (オイル交換指
示) の順番に表示が切替わります。
- SET (設定) ボタン
OILCHANGE(オイル交換)モード、TRIP
(トリップ) モードに切り替えた状態で
設定変更時に使用します。時計の設定時
にも使用します。

- 時計
時間を表示します。12時間制で表示しま
す。
調整方法
 - ・MODE (モード切替) ボタンを3秒以
上押しすると、時間の表示が点滅しま
す。
 - ・SET (設定) ボタンを押して、時間を
設定します。
 - ・時間の表示の設定完了後、MODEボタ
ンを押して、2桁目の分表示を点滅さ
せます。
 - ・SETボタンを押して2桁目の分を調整
後、もう一度MODEボタンを押すと、
1桁目の分表示が点滅します。
 - ・再度SETボタンを押して、1桁目の分
表示を完了後、MODEボタンを押して
設定完了。

⚠注意

バッテリーを充電または交換した後は、
時計を再設定して下さい。

●エンジンオイル交換指示 “”

走行距離が1000km~1300kmに達したら、エンジンオイル交換指示の“”記号マークが点滅します。表示されたらエンジンオイルを交換して下さい。交換後、エンジンオイル交換表示をリセットして下さい。

【リセット方法】

MODE (モード切替) ボタンを押して、OILCHANGERESET (オイル交換リセットモード) を選択し、SETボタンを1秒以上押して、リセットを完成します。

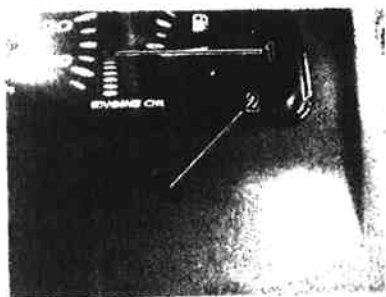
【要点】

リセットモードでは、ODOとTRIP表示は出来なくなります。

●エンジンオイル交換指示灯

(YP125Eのみ)

走行距離が1000km~1300kmに達したら、指示灯が緑色から赤色にかわります。赤色に変わったらエンジンオイルを交換して下さい。交換後、リセットスイッチにメインキーを差して表示灯を緑色にして下さい。



- 1. エンジンオイル交換指示灯
- 2. リセットスイッチ

●オドメーター

走行積算距離が表示されます。

●トリップメーター


前に0にセットしてからの走行距離が表示されます。

【リセット方法】

TRIPモードでSETボタンを1秒以上押して距離記録をリセットします。

【要点】

ODOとTRIPはボタン操作で切り替え表示します。

●イモビライザー作動灯 “”

盗難防止システムがキーを識別する時に点灯します。乗車時にワーニングランプが点滅した場合、不具合が発生しています。

●水温警告灯 “”

水温が120℃に達すると、水温警告灯とワーニングランプが点滅します。直ちに停車してエンジンを冷やして下さい。

●エンジン警告灯 “”

エンジン警告灯とワーニングランプが点滅したら、エンジンに故障が発生しています。

各スイッチの使い方

◇メインスイッチ

イグニッション及び灯火装置の制御をメインスイッチで行います。又ハンドルロック施錠時に使用します。

各ポジションの機能は下記のとおりです。



ON

電気回路がオンになり、エンジンを始動できます。

キーの抜き取りはできません。



OFF

すべての電気回路がオフになり、キーの抜き取りができます。



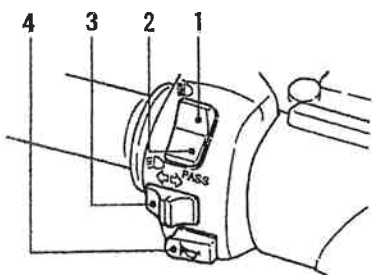
LOCK

ハンドルがロックされ、すべての電気回路がオフになり、キーの抜き取りができます。

▲警告

走行中は、絶対にメインスイッチのキーを“OFF”又は“LOCK”の位置に回さないで下さい。これを行うと、電気回路のスイッチが切れ、オートバイがコントロールできなくなり、事故に至るおそれがあります。メインスイッチキーを“OFF”または“LOCK”の位置に回す場合は、必ずオートバイを停車させて下さい。

◇左ハンドルスイッチ



1. ヘッドライトディマスイッチ “ H/O / H ”
2. パッシングライトスイッチ “PASS”
3. ターンシグナルスイッチ “ L / R ”
4. ホーンスイッチ “ H ”

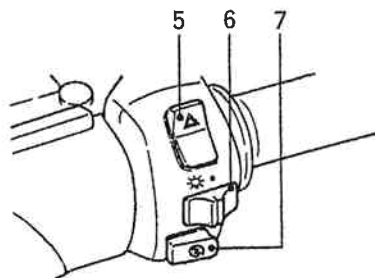
●ヘッドライトディマスイッチ “ H/O / H ”
ハイビームにする時は “ H/O ”、ロービームにする時は “ H ” を押します。

●パッシングライトスイッチ “PASS”
ハイビームヘッドライトを点灯させる時に押します。ヘッドライトスイッチのON/OFFの位置とは関係なく “PASS” を押せば、ヘッドライトが上向きとなります。

●ターンシグナルスイッチ “ L / R ”
右折する時は “ R ”、左折する時は “ L ” の方向にスイッチを押して、ランプを点滅させます。押した後、スイッチはすぐに中央に戻ります。点滅を停止するには、スイッチがいったん元の位置に戻った後、このスイッチを押します（=ブッシュキヤンセル式）。

●ホーンスイッチ “ H ”
スイッチを押すとホーンが鳴ります。

◇右ハンドルスイッチ



5. ハザードスイッチ “ Δ ”
6. ヘッドライトスイッチ “ O / O ”
7. スタータースイッチ “ S ”

●ハザードスイッチ “ Δ ”
メインスイッチをONにしてハザードスイッチをONにすると全ての方向指示器が点滅します。

●ヘッドライトスイッチ “ O / O ”
スイッチを “ O ” の位置に動かすとヘッドライト、メーターライト、テールランプ、ライセンスプレートランプが点灯します。

▲警告
日本国内においては、ヘッドライトの常時点灯が義務付けられています。

●スタータースイッチ “ S ”
スタータースイッチを押して、セルスターターにより、エンジンを始動させます。

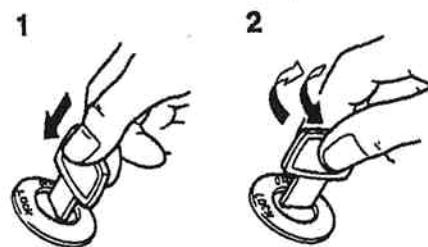
各装備の使い方

◇ステアリングロック

盗難防止のため、車から離れるときは、ステアリングロックを掛け、キーを抜いてお持ち下さい。

●ステアリングロックのかけ方

- ① 平坦地で、車体をスタンドで立てます。
- ② ハンドルバーを左にいっぱいまで切りまします。
- ③ メインスイッチにキーを差し込みます。
- ④ キーを押し込みながら「LOCK」ポジションまで回します。
・ステアリングロックが、かかります。



1. 押す
2. 回す

要点

ステアリングロックがかかりにくいときは、ハンドルバーを少し左右に動かして、ロックします。

- ⑤ メインスイッチから、キーを抜き取りまします。

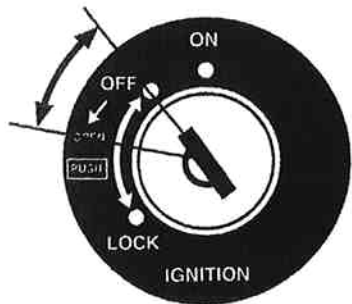
●ステアリングロックの外し方

- ① メインスイッチにキーを差し込みます。
- ② キーを押し込みながら、「OFF」の位置まで回します。
・ステアリングロックが外れます。

▲警告

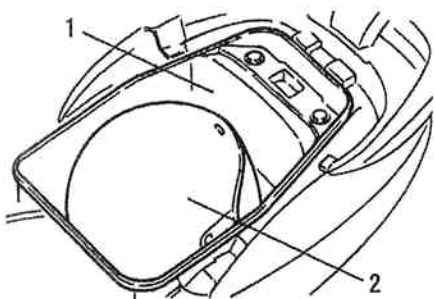
- ・走行前にハンドルバーを左右に操作して、切れ角が左右均等であることを点検して下さい。
- ・走行中にLOCKに決して回してはいけません。車輛のコントロールが出来なくなってしまうます。

◇シート



シートを開ける時は、キーを差し込んで反時計回り方向に“OPEN”の位置までまわします。閉める時は、シートを元の位置に押し込めばロックがかかります。

●トランクボックス



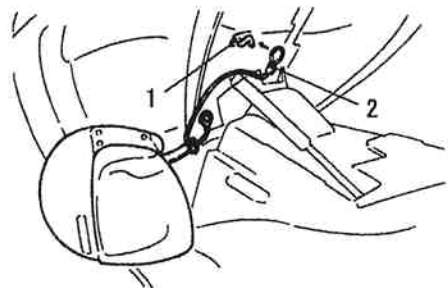
1. トランクボックス
2. ヘルメット

トランクボックスはシートの下にあります。ヘルメットを置くときは、図のように収納します。

▲警告

最大積載量 (5.0kg) を超えた量の荷物を詰めないで下さい。

●ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー
2. ヘルメット固定ワイヤー

シートを開けますと、ホルダーがあります。ヘルメットストラップ上のバックルにヘルメットワイヤーを通します。先端の輪になった部分をヘルメットホルダーに引っ掛け、シートをロックして下さい。

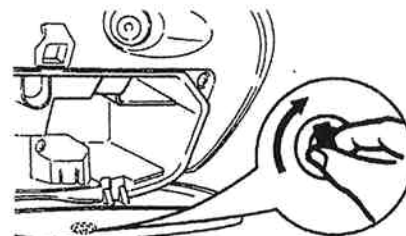
▲警告

ヘルメットをホルダーに取り付けて走ると車体に当り非常に危険です。ヘルメットホルダーは駐車中のみ使用して下さい。ヘルメットをホルダーに固定したまま走行してはいけません。

要点

- ・日中トランクボックス内の温度は非常に高く、熱に弱い物を入れないで下さい。
- ・貴重品や割れやすい物をトランクボックスに入れないで下さい。
- ・雨や洗車時にトランク内のものにビニールを被せて下さい。
- ・ぬれたものをトランクに入れる場合、ビニール袋に入れて下さい。

◇フロントトランク



ハンドルの下の子車体部分にフロントトランクがあります。キーを差し込んで時計回りに回せば開きます。蓋をもとに押し戻せばロックがかかります。

▲警告

小物入れの最大積載量は3.0kgです。

▲注意

ツールバッグはフロントトランクに入っています。

◇バンクセンサー装置 (YP125FIのみ)

この車両にはバンクセンサー装置が付いています。車両の傾斜角度は65℃を超えた場合、危険防止の為ECUが自動的に作動し、電源を遮断します。一旦キーをOFFに戻してからONに回して再始動して下さい。

◇サイドスタンド

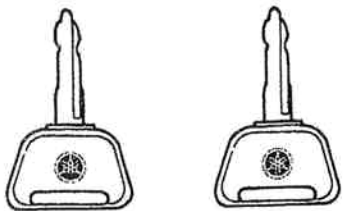
●サイドスタンド

サイドスタンドは車体左側にあります。サイドスタンドを足で上げ下げする操作は、オートバイを直立させた状態で行って下さい。

▲警告

オートバイは、サイドスタンドを下ろした状態や正しく上がっていない状態(上がったままにならない状態)で運転してはいけません。サイドスタンドが路面に接触して運転の妨げとなり、事故の原因となるおそれがあります。

◇イモビライザー(盗難防止装置) (YP125FIのみ)



車両には2本の黒いキーが付きます。工場出荷前にキー登録が完了しており、始動の際には、キーをONの位置に回せば、ECU(コントロールユニット)に登録されている識別番号はキー本体に内蔵しているチップと照合されます。照合完了後、エンジン始動が可能となります。

要点

- キーは精密機器ですので、無理に力を加えたり、叩いたりしない様にして下さい。
- キーを紛失した場合は、新たにキーセットを交換することになってしまいますので、十分にご注意下さい。万が一、紛失した場合、最寄りのヤマハ又はバイクショップにご相談下さい。
- キーにはチップが内蔵されており、電子干渉防止の為、重ねて使わないで下さい。

◇ブレーキ

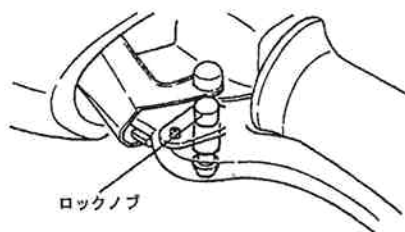
●フロントブレーキ

フロントブレーキレバーは右ハンドル側です。レバーを手前方向に握りこみますと、前輪にブレーキをかけます。乗車前に制動装置の性能を確かめて下さい。

●リアブレーキ

リアブレーキレバーは左ハンドルにあります。レバーを手前方向に握りこみますと後輪にブレーキをかけます。乗車前に制動装置の性能を確かめてください。

●駐車ブレーキ



駐車時は駐車ブレーキをかけてください。駐車ブレーキは後輪にかけます。左ハンドルにあるリアブレーキレバーを手前方向に握りこんだ状態でブレーキレバーの先端にあるロックノブを下に押し込み、駐車ブレーキをかけてください。ブレーキを解除する時は、ブレーキレバーを手前方向に握りこみます。ロックノブが自動的に跳ね上がり駐車ブレーキは解除されます。

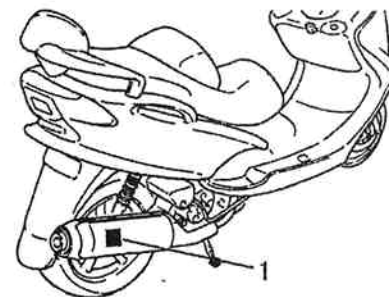
▲注意

駐車ブレーキが作動不良または作動不能な場合は最寄りのヤマハ又はバイクショップで点検をうけてください。乗車前にブレーキ装置が解除されたことを確認ください。

▲警告

- 不必要な急ブレーキはかけないで下さい。
- 濡れた踏み切りや路面電車の路線、鉄板が敷いてある道やマンホールを通過する際、タイヤが滑りやすいので、スピードを落として安全運転を心がけて下さい。
- 濡れた路面上のブレーキは効きにくいので充分注意して下さい。
- 下り坂のブレーキは効きにくいので、山道走行の際スピードを落として下さい。

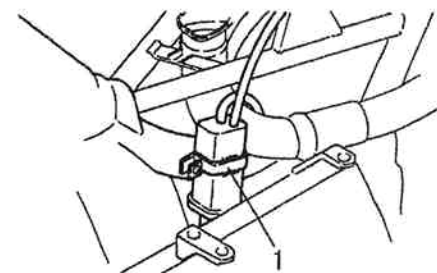
◇キャタライザー



1. キャタライザー

この機種には排気ガス対策として、触媒キャタライザーを装着しています。触媒キャタライザーはマフラーに内蔵しており、排気ガス中の有害物質の放出を低減する役割を果たします。

◇キャニスター

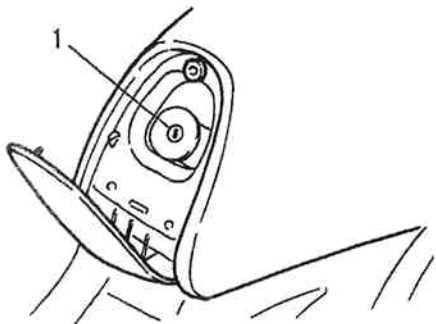


1. キャニスター

この機種にはガソリン蒸発防止の為に活性炭(キャニスター)装置が付いています。定期的に応記の項目を点検してください。

- 活性炭とつないでいるホースの接続状態。
- 各ホースと活性炭装置の亀裂、損傷などの有無。
- プリーザーホースの状態。

燃料の補給



1. フューエルタンクキャップカバー

●フューエルタンクキャップ

〈キャップを開けるには〉

はじめにフューエルタンク保護カバーを開けます。次に、キーを差し込み、時計方向に1/4回転させると、ロックが外れ、キャップが開きます。

〈キャップを閉じるには〉

- ①キーを差し込んだままフューエルタンクキャップを押します。
- ②キーを抜き取ります。ロックカバーを閉じます。

要点

このフューエルタンクキャップは、キーをロックのポジションに入れないうちに閉じません。又、キャップを正しく閉めなければ、キーを抜き取ることはできません。

▲警告

走行前には、フューエルタンクキャップがきちんとしまり、正しくロックされていることを必ず点検してください。

●ガソリン

タンクの中にガソリンが充分入っていることを確認してください。

▲警告

- ・ガソリンを入れすぎないでください。燃料の温度が上昇した時や、膨張した時にオーバーフローするおそれがあります。

▲注意

こぼれたガソリンは、ただちにきれいな乾いた柔らかい布で拭取ってください。放置しておくと、塗装面やプラスチック部分を損傷するおそれがあります。

推奨ガソリン：無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：8L

▲注意

無鉛ガソリンのみ使ってください。有鉛ガソリンを使うと、バルブ、ピストンリング及びエンジン内部品、排気装置の損傷となるおそれがあります。

オクタン価91以上（レギュラー）の無鉛ガソリンを使用して下さい。又、資源の保全とエンジン性能を十分に引き出すためには、オクタン価95以上のハイオクガソリンは使用しないでください。

運転操作

◇エンジンをかける前に

エンジンをかける前に以下の点検を実施してください。

- ・灯火類、制動装置などの点検
 - ・燃料の残存量
 - ・車はメインスタンドで立てている
 - ・サイドスタンドが上に格納されている
- 点検は車の左側で行って下さい。

▲警告

エンジンは、風通しの良い場所でかけて下さい。

- ・排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきった車庫の中など風通しの悪い場所でのエンジン始動や暖機運転はしないで下さい。

▲注意

- ・スターターボタンを5秒以上押し続けないで下さい。消費電力が大きいため、バッテリー上がりの原因となるばかりでなく、スターターモーターを損傷させるおそれがあります。
—5秒以内にエンジンがかからないときは、10秒以上時間をあけてから掛けて下さい。
- ・エンジンがかかったら、スターターボタンからすぐに指を離して下さい。

▲注意

以下の警告灯と表示灯は数秒間点灯し、その後消灯します。（YP125FIのみ）

- ・ワーニングランプ
- ・エンジン警告灯

もし警告灯と表示灯が消灯しない場合は、最寄りのヤマハ又はバイクショップにご相談下さい。

▲注意

〈YP125FI〉

キーを「ON」の位置にしますと以下の様に作動いたします。

- ・フューエルポンプの作動音が3～4秒間続きます。
- ・液晶メーターが点灯します。
- ・燃料計がフルレンジを表示し、3～4秒後に実際の燃料量を表示します。
- ・速度計は188kmを表示し、3～4秒後に0に戻ります。
- ・ワーニングランプは点灯し、3～4秒後に消えます。
- ・時計、オイル交換指示灯とオドメーターは3～4秒間ゼロ表示後、実際の数値を表示します。
- ・エンジン警告灯は3～4秒点灯後消えます。

◇エンジンのかけ方

このオートバイには自動式チョーク機能がついており、YP125FIには燃料噴射(フューエルインジェクション)装置が装着されています。以下の手順に従って下さい。

- ①メインスイッチにキーを差し込みます。
- ②キーを「ON」の位置にします。
- ③スロットルグリップを完全に戻した状態で前後どちらかブレーキレバーを握り、スタータースイッチを押してエンジンを始動下さい。
- ④エンジンに悪影響を与えない為に、エンジンが充分暖まるまで1～3分待ちます。なお、始動後の急加速を避けて下さい。
- ⑤エンジンが暖まったら左側のブレーキレバーを握り、右手でスタンディングハンドルを握り、メインスタンドを解除して下さい。
- ⑥乗車してバックミラーの角度を確認します。
- ⑦道路状況を確認して、ウインカーで合図を出して下さい。
- ⑧スロットルグリップをゆっくりまわし、ブレーキレバーを離して発進して下さい。発進後合図を消して下さい。

要点

- ・スタータースイッチを押して5秒以内でエンジンがかからないときは、バッテリー電圧を回復させる為、少し待って再始動してください。
- ・4～5回スタータースイッチを押しても始動しない場合、スロットルグリップを1/8から1/4周まわして始動すると、かかりやすくなります。
- ・スタータースイッチでの始動が出来ない場合はキックスターターで始動してください。
- ・エンジン保護装置が付いており、エンジン回転数が、10,000回転以上に達した場合は、コントロールユニットが自動的に作動し電源を遮断します。これにより多少エンジンの断続感がします。このため、スロットルグリップを戻して下さい。回転を落とさないと断続感が続きますので、ご注意ください。
- ・海拔2,000メートル以上の高地で4時間以上停車したあと始動(コールドスタート)した場合、スロットルグリップをまわしながら始動して下さい。尚、高地での暖機は5分間程でエンジンの回転がスムーズになります。
- ・この車両は触媒キャタライザーが付いています。走行中にメインスイッチをOFFにすると、大量な未燃焼混合気が触媒に流入することで触媒が焼けてしまう恐れがありますので、絶対しないで下さい。

◇エンジンの止め方

メインスイッチを「OFF」の位置にすると、エンジンが停止します。エンジンやマフラーは熱くなりますので子供やペットから離れた場所で駐車して下さい。急な斜面または柔らかい地面での駐車を避けてください。

◇メインスタンドの立て方

左手でハンドルをまっすぐに支え、右手でグラブバーを持ちます。車体をまっすぐにしたまま右足でメインスタンドを踏み、左右同時に地面につけた状態で体重をかけて踏み込みます。グラブバーを引き上げ、スタンドをかけます。

◇ならし運転

オートバイの寿命においても最も重要な時期は0km～1,600kmまでです。新車を操作する時は下記の注意をよく守って下さい。新品のエンジン(初回1,600km未満)に過度の負荷をかけるのは禁物です。この時期、エンジン内部のパーツは互いに磨かれ、擦れ合うことによって、やがて適度なクリアランスが得られるようになります。従って、スロットルを長時間全開にしたり、エンジンが焼き付きを起こすような走り方は避けて下さい。

要点

慣らし運転期間中又はその後に、エキゾーストパイプが変色する場合がありますが、これは熱のために変色するもので、問題はありません。

△注意

初回1,000km走行後、エンジンオイルを交換して下さい。

駐車時の注意

▲注意

- ・エンジン回転中や停止直後は、エンジンやマフラーなどに触らないで下さい。熱くなっており、ヤケドをするおそれがあります。
 - 他の人が触れない安全な場所を選んで駐車しましょう。
 - 草など燃えやすいものに車体が触れない場所を選んで駐車しましょう。
 - ボディカバーをかぶせるときは、エンジンやマフラーなどが冷えてからかぶせて下さい。
 - ・長時間駐車する場合は、必ずエンジンを止めて下さい。エンジンを掛けたままの駐車は、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。
 - ・水平でしっかりした場所に駐車して下さい。
 - 傾斜した場所やでこぼこなところ、地面がやわらかい場所などでの駐車は、車が不安定になり、転倒するおそれがあります。
- 車から離れるときは、盗難防止のため、ステアリングロックを掛け、キーを抜いてお持ち下さい。(ステアリングロックのかけ方は、P15「◇ステアリングロック」を参照)
- パーロックなどの併用もおすすめします。

日常点検

◇日常点検の実施について

お車を安全、快適にご使用いただくため、法に準じて、お車を使用する人が1日1回、お出かけの前に日常点検を行うことが義務づけられています。

▲警告

日常点検を怠ると、重大な事故や故障につながるおそれがあります。必ず実施して下さい。

◇日常点検の項目

●ブレーキ液量の点検

点検窓から確認できるブレーキフルードの量がLOWER(下限)以下になった場合は、最寄りのヤマハ又はバイクショップで点検・整備を受けてください。ブレーキレバーをいっぱい握った状態で数分間維持し、ブレーキホースやブレーキマスターシリンダーからブレーキフルードの漏れが無いか確認します。漏れが確認された場合、直ちに最寄りのヤマハ又はバイクショップで点検を受けてください。

●ブレーキレバーの遊びの点検

- ・ブレーキレバーを離している時、手で抵抗を感じるまで引いた時の位置の差が、レバーの遊びの量です。
- ・遊びの量はレバーの先端で：
 - 前輪ブレーキ(右)レバー 2～5mmが適当です。
 - 後輪ブレーキ(左)レバー 10～20mmが適当です。

▲警告

この範囲に無い時は、制動装置に故障が起きた可能性が高いので運転しないで下さい。最寄りのヤマハ又はバイクショップに点検依頼をしてください。

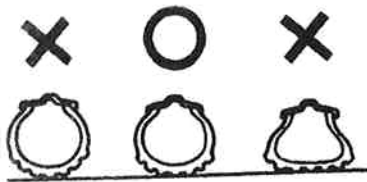
●タイヤの点検

▲警告

タイヤに異常があると操縦安全性に悪影響をおよぼしたり、パンクの原因となります。

・異常がある場合は、最寄りのヤマハ又はバイクショップで、点検・整備を受けて下さい。

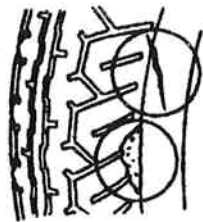
〈空気圧〉



タイヤの設置部のたわみの状態により、空気圧が不足していないかを点検します。空気圧が適正でない場合は、下記の指定空気圧に調整して下さい。

	1人乗	2人乗
前輪	1.50kgf/cm ²	1.50kgf/cm ²
後輪	2.0kgf/cm ²	2.25kgf/cm ²

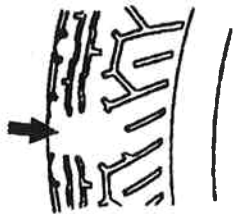
〈亀裂、損傷〉



タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

・異常がある時は、走行しないで下さい。

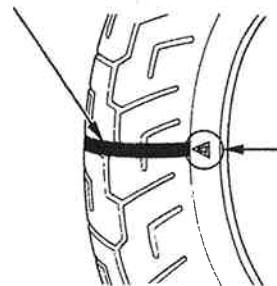
〈異常な摩耗〉



タイヤの接地面が、異常に摩耗していないかを点検します。

・異常がある時は、走行しないで下さい。

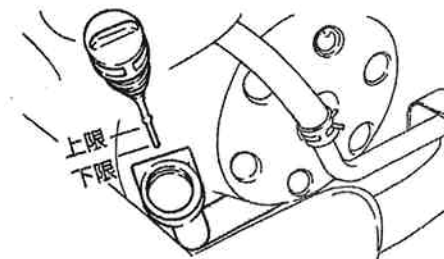
〈溝の深さ〉



タイヤの溝の深さに不足がないかをウェアインジケーターなどで点検します。

・ウェアインジケーターの見方
タイヤ側面に「△」表示マークがある位置の溝に、ウェアインジケーターがあります。ウェアインジケーターの位置の溝がなくなったら、タイヤの交換です。

●エンジンオイル量の点検



- ①平坦地で車体を垂直に立て、更に2～3分アイドリング運転します。
- ②オイルレベルゲージでエンジンオイル量を点検します。
- ③規定範囲以下のときは、オイルレベルゲージでエンジンオイル量を確認しながらオイル注入口よりオイルを補給します。オイルが上限と下限の間であれば正常です。
- ④点検を完了したら、オイルレベルゲージをねじ込みます。

定期点検

◇初回点検について

新車のご使用開始から1,000km走行時または1ヶ月経過時に、無料の初回点検を実施します。

最寄りのヤマハ又はバイクショップにお申し付け下さい。

要点

点検時のオイル、消耗部品の料金、特別ご用命の作業につきましては、有料になります。

◇定期点検の実施について

標準的な使用を前提として定められた項目を基に、点検を行います。

- ・定期点検には、6ヶ月点検と12ヶ月点検の2種類があります。

定期交換部品について

- ・車の走行距離や時間の経過に伴い、外観的に異常がなくても消耗、劣化が進み、まだ使用できるか判断しにくい部品があります。(このような部品を定期交換部品と呼びます)
- ・定期交換部品は、下表の交換時期に従って交換して下さい。

▲警告

部品の交換作業は、専門的な知識を必要としますので、最寄りのヤマハ又はバイクショップにお申し付け下さい。

定期交換部品の交換は、お客様の責任と費用のご負担で実施いたたくものです。

- ・オイル、バッテリー、タイヤなどを廃棄するときは、法令によって適切に処理することが義務づけられています。ご自身で適切に処理できない場合は、最寄りのヤマハ又はバイクショップに交換作業をご依頼下さい。

定期交換部品名	交換時期
ブレーキ装置 ・ブレーキフルード	18,000km走行毎または18ヵ月毎
エンジン ・エアクリナー ・エンジンオイル ・冷却水 ・スパークプラグ	18,000km走行毎または18ヵ月毎 初回1ヵ月または1,000km走行時以降3,000km走行毎 36,000km走行毎または36ヵ月毎 24,000km走行毎または24ヵ月毎

※エンジンオイル・オイルフィルターなどは弊社推奨の交換時期です。
(メーカー指定の部品交換時期とは異なります。)

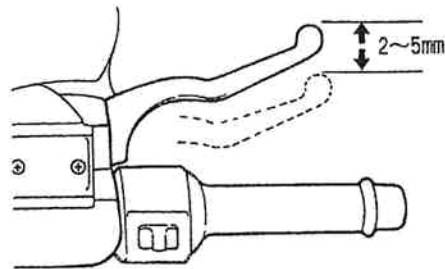
簡単なメンテナンス

この章では、日常点検以外によく行われる簡単な点検、整備について説明しています。ご自身で点検や整備を行うときは、以下の注意事項を守って作業して下さい。

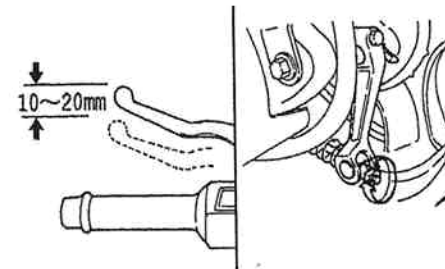
▲注意

- ・ご自身の知識、技量に合わせた範囲で点検、整備を行って下さい。難しいと思われる内容については最寄りのヤマハ又はバイクショップにご依頼下さい。
- ・場所は平坦地で、足場がしっかりしたところを選び、スタンドを立てて行って下さい。
- ・特に指示のない場合、作業は、エンジンを止め、キーを「OFF」にして抜いた状態で、行って下さい。
- ・排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきった車庫の中など風通しの悪い場所でのエンジンを掛けての点検、整備はしないで下さい。
- ・エンジン回転中や停止直後は、エンジン本体やマフラーが熱くなっています。ヤケド防止の為、熱くなったところに直接触れないで下さい。

◇ブレーキレバーの距離調整 〈フロント〉



〈リア〉



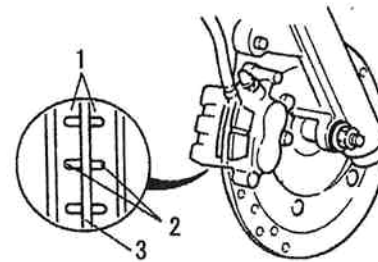
ブレーキレバーには適切な遊びが必要です。前後輪ブレーキレバー先端部の遊びが規定値になる様に調整します。調整はヤマハ又はバイクショップにお申し付け下さい。
前輪ブレーキレバーの遊び：2～5mm
後輪ブレーキレバーの遊び：10～20mm

◇ブレーキパッド、シュー点検

▲警告

交換時期を超えたブレーキパッド及びシューは、使用しないで下さい。
・ブレーキパッド及びシューの交換は、専門的な知識を必要としますので、最寄りのヤマハ又はバイクショップにお申し付け下さい。

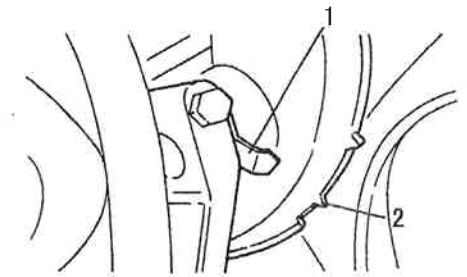
〈フロントブレーキパッドの点検〉



1. ブレーキパッド
2. インジケーター
3. ブレーキディスク

ブレーキパッドのインジケーターとブレーキディスクの隙間で摩耗の状態を点検します。隙間が無くなったら、ヤマハ又はバイクショップにてブレーキパッドを交換してください。

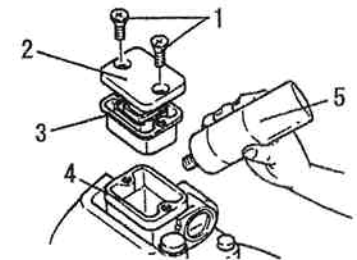
〈リアブレーキシューの点検〉



1. インジケーター
2. 使用範囲

後輪用ブレーキレバーをいっぱい握り、インジケーターが使用範囲から外れる場合はブレーキシューの使用限度です。直ちに最寄りのヤマハ又はバイクショップにご相談下さい。

◇ブレーキ液の補充



1. スクリュー (×2)
2. キャップ
3. ダイヤフラム
4. リザーバータンク
5. ブレーキ液

- ①リザーバタンクの周りの汚れをきれいにふき取り、異物がタンク内に入らないようにします。
- ②スクリューを外し、キャップ、ダイヤフラムを取り外して下さい。
- ③ブレーキ液をロアレベル以上に補給して下さい。
- ④ダイヤフラムのかみこみに注意しスクリューでキャップを取り付けます。

メーカー指定のブレーキ液を使用してください。ダイヤフラムが変形液漏れの原因になるので、他銘柄との混合使用はしないでください。

リザーバタンクにゴミや水が混入しないよう十分注意してください。

ブレーキ液を塗装面、プラスチック、ゴム類に付着させると部品が腐食することがあります。付着したらすぐ水で洗浄しふき取ってください。

ロアレベル以上に補給できない場合は、ブレーキシステムの液漏れが考えられますので、最寄りのヤマハ又はバイクショップにて点検を受けてください。

◇冷却水の補給と交換

クーラントの交換には適正な工具やサービスデーラーが必要となる為、最寄りのヤマハ又はバイクショップにご依頼下さい。又、クーラントの補給はリザーバタンクで行って下さい。ラジエーターキャップを外してクーラントを補給してはいけません。

▲警告

エンジンが熱い時にラジエーターキャップを開けると、クーラントが噴出し、重いヤケドをする恐れがあります。ラジエーターキャップを外す前にエンジンとラジエーターは冷まして下さい。

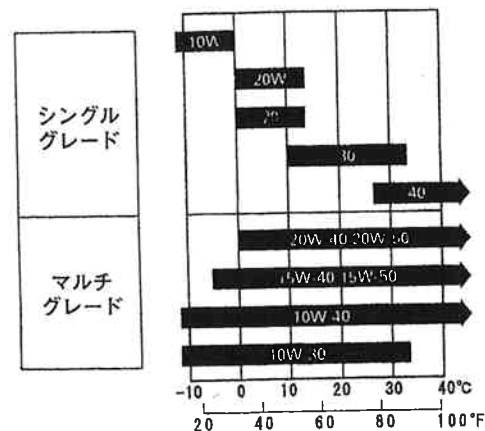
◇エンジンオイルとフィルター交換

●エンジンオイル

APIサービスクラスSF又はSGの必要条件を満たしている高品質エンジンオイルだけを使用して下さい。

●粘度

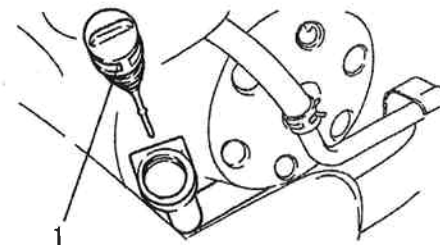
エンジンオイルの粘度の等級は実際に運転する地域での平均大気温度に基づいて、選択して下さい。以下の表は色々な温度状況での適正な等級あるいは粘度を表します。



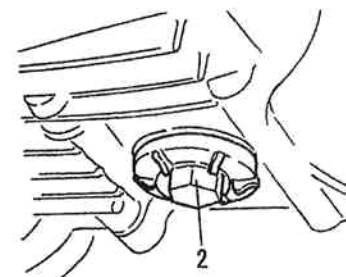
●使用済みエンジンオイルの取り扱い

エンジンオイルの品質はエンジンの使用寿命に影響する主な要因です。エンジンオイルはP29の「定期交換部品について」で説明されている頻度で交換して下さい。オイル交換はとて多量の埃の多い条件で走行するときは、より頻繁に行ってください。使用済みオイルを長時間皮膚に接触させてはいけません。使用済みオイルを扱った後は出来るだけ早く手を石鹸水で洗うようにして下さい。

●エンジンオイルの交換



1. オイルレベルゲージ



2. ドレンボルト

- ①平坦地で車体を垂直に立て、2～3分アイドリング運転してからエンジンを止めます。
- ②ドレンボルトの下にオイルトレイを置きます。
- ③オイルレベルゲージを外して、ドレンボルトを外します。
*ドレンボルトを外す際、フィルター、スプリング、Oリングも外れますので、これらの部品を無くさないように取っておきます。
- ④フィルターを洗浄します。
- ⑤Oリングの破損がないか確認します。破損した場合、新品と交換します。
- ⑥指定トルクでドレンボルトを締め付けます。

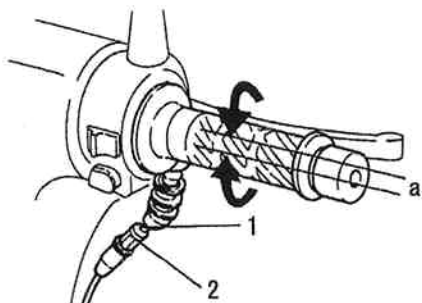
締め付けトルク：
ドレンボルト：
31.4Nm

- ⑦新しいエンジンオイルを規定レベルまで注入します。
- ⑧交換完了後、オイルレベルゲージを元の位置に閉めてください。
- ⑨エンジンをかけ、数分間暖機しながらオイル漏れを点検します。オイル漏れを発見したら直ちにエンジンを停止、原因を調べます。

オイル容量：1.2L

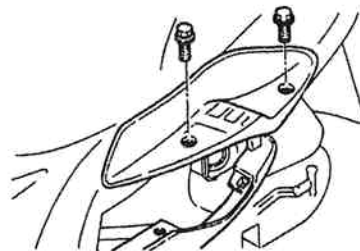
◇スロットルケーブルの遊び調整

スロットルケーブルの遊びはグリップのツバ部分の外周で3～5mmが適正です。この範囲に設定されていない場合は、最寄りのヤマハ又はバイクショップに依頼して下さい。

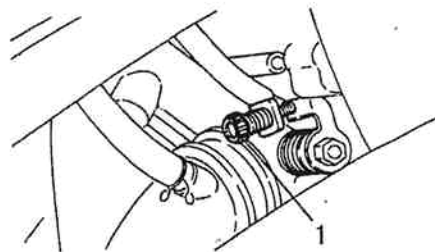


1. ロックナット
2. アジャスター
- a. スロットルケーブルの遊び

◇アイドリング調整



- ①左側のフットボードを外します。



1. アイドリング調整スクリュー

- ②アイドリング調整スクリューを回して調整します。

時計回りに回しますとアイドリング回転が早くなり、反時計回りに回しますとアイドリング回転が遅くなります。

要点

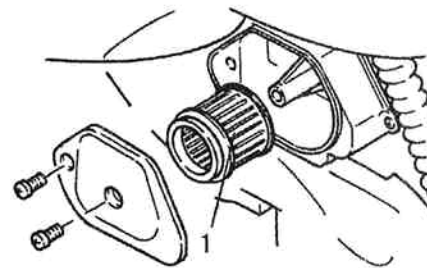
標準アイドルスピード：
1,550～1,650r/min

上記手順で指定回転数に設定できない場合は、最寄りのヤマハ又はバイクショップに調整についてご相談下さい。

要点

この機種は燃料噴射式エンジンの為、アイドリング速度は工場出荷前の段階で標準設定が完了しておりますので、自分で調整しないでください。調整の際はヤマハ又はバイクショップにご相談下さい。

◇エアクリーナーエレメント交換



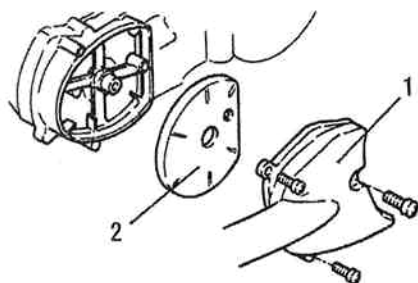
1. エアクリーナーエレメント

- ①取り付けスクリューを外して、エレメントの蓋を外します。
- ②クリーナーエレメントを取り外して交換します。
- ③再度エレメントの蓋を取り付けて、スクリューをしっかり締め付けます。取り付けが不完全であると、ゴミやほこりを直接吸ってエンジン耐久性に悪影響を与えます。

⚠注意

エレメントは紙製であるため、水洗いは出来ません。

◇ベルトフィルターエレメントの清掃



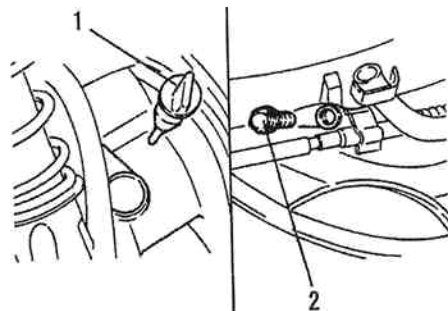
1. カバー
2. フィルターエレメント

- ①取り付けスクリューを外して、カバーを外します。
- ②エレメントを点検し、損傷があった場合は交換します。
- ③フィルターエレメントを軽くたたいてゴミ、ほこりを落とす、またはエアガンで黒い面（内側）から吹いて清掃します。
- ④取り付ける際は、黄色い面を外向きにして下さい。

△注意

ベルトフィルターエレメントは乾式の為、油や水につけないよう注意下さい。エレメントが傷む原因になりますので、曲げたりしないように注意下さい。

◇ミッションオイル交換



1. キャップ
2. ドレンボルト

- ①平坦地でエンジンを停めます。注入口のキャップとドレンボルトを取り外します。オイルを排出します。
- ②ドレンボルトを締め付けます。

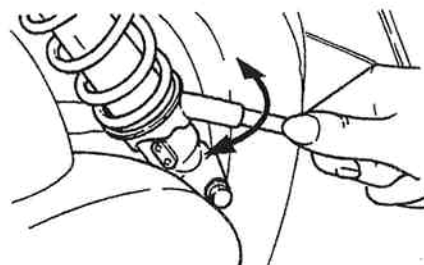
締め付けトルク：
ドレンボルト：2.3Nm

- ③ミッションオイルを補給します。
オイル容量：130cc
- ④キャップを取り付けます。

△注意

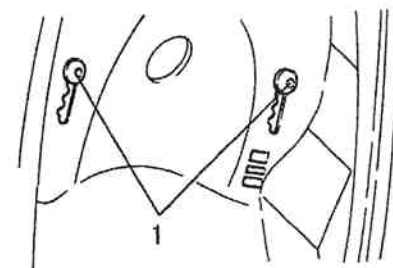
オイル補給するときは、ゴミや水など異物が混入しないように十分注意してください。タイヤに付けないように注意下さい。

◇リアサスペンションの調整



各自の好みや走行状況に応じて調整が出来ます。適切な工具を使って、リアサスペンションのアジャスター調整穴に挿し込み、スプリングの調整をします。スプリングは時計回り方向へまわすと硬くなります、反時計回り方向へまわすと柔らかくなります。調整できる段数は3段で、ハードは3、標準は2、ソフトは1となります。

◇シートバックレストの調整



1. 調整ネジ

調整ネジにより5段階（50mm）にバックレストの角度調整ができます。

◇バッテリー

このバッテリーはメンテナンスフリータイプですから、バッテリーの電解液レベルをチェックしたり又は蒸留水を追加する必要はありません。

バッテリーが弱まっているようであったり、電解液が洩れている場合は、最寄りのヤマハ又はバイクショップにご相談下さい。

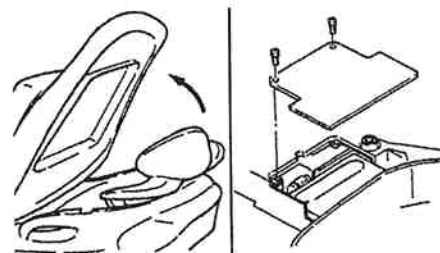
△注意

- ・バッテリーのキャップを取り外すとキャップを傷つけ、漏れやバッテリーを損傷させる恐れがあります。
- ・オートバイを長期間保管しておく必要がある場合は、バッテリーをオートバイからはずし、完全に充電します。それから、バッテリーを涼しい、乾いた場所に保存します。バッテリーをオートバイから外しておけない場合はマイナスケーブルをターミナルから外します。

▲警告

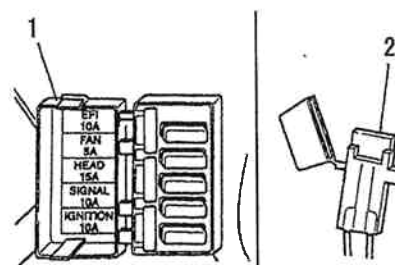
- ・バッテリーは爆発性ガスを発生します。火花、火災及びタバコは遠ざけて下さい。締め切った場所で充電したり、バッテリーを使用する時は適切な換気を行って下さい。
- ・バッテリーは亜硫酸（電解液）を含んでいます。肌や目に触れるとひどい火傷を引き起こす恐れがあります。
- ・万一電解液が目に入ったら、少なくとも15分間は水で洗い流しすぐに医師の診察を受けて下さい。
- ・電解液は有毒です。
- ・万一飲み込んだら、多量の水又は牛乳を飲んで、医師の診察を受けて下さい。
- ・バッテリーは子供の手の届かない所において下さい。

◇ヒューズ

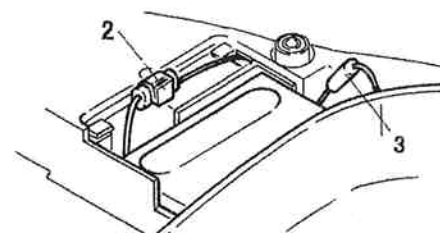


メインヒューズ及びヒューズボックス (YP125FI) は、シート下のトランクボックス前方にある、2本のスクリューでとまっているカバーをはずした所にあります。

〈YP125FI〉



〈YP125E〉



1. ヒューズボックス
2. メインヒューズ
3. ファンモーターヒューズ

指定ヒューズ：

〈YP125FI〉

メインヒューズ：	30 A
インジェクションヒューズ：	10 A
ファンモーターヒューズ：	5 A
ヘッドライトヒューズ：	15 A
シグナルヒューズ：	10 A
イグニッションヒューズ：	10 A

〈YP125E〉

メインヒューズ：	20 A
ファンモーターヒューズ：	3 A

お車のお手入れ

お車を長持ちさせる為に、お手入れをしましょう。

お手入れをすると、普段気づかなかった異常箇所や摩耗などが早く発見でき、故障の予防にもなります。

◇洗車

舗装されていない道路を走ったり、雨天時の走行などで車が汚れたときには、早めに洗車しましょう。

△注意

- ・洗車は、エンジンが冷えているときに行ってください。
- ・以下の部分には強く水をかけないで下さい。故障や錆、始動不良の原因となります。

ホイールハブ
メインスイッチ
ブレーキマスターシリンダー
メーターパネル
ハンドルスイッチ
マフラーの開口部
フューエルタンクの下面付近
シートの下

◇ウインドスクリーンや

プラスチック製部品などの取り扱い
ウインドスクリーンやプラスチック製部品の清掃は、水で洗い流しながら中性洗剤を含ませたスポンジまたはやわらかい布で汚れを落とし、もう一度洗い流してから拭き取って下さい。

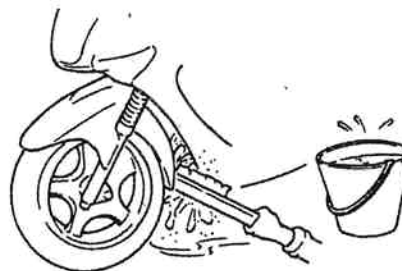
△注意

- ・乾いた状態で拭かないで下さい。キズ付きの原因となります。
- ・ガソリン、シンナーなどの有機溶剤または酸性、アルカリ性の洗剤は使用しないで下さい。
- ・コンパウンドやコンパウンド入りのワックスを使用しないで下さい。キズ付きの原因となります。
- ・油膜取り剤、撥水剤などのケミカル用品は使用しないで下さい。
- ・ガソリン、ブレーキフルードなどが付着しないように注意して下さい。ひび割れの原因となることがあります。
- ・氷結しているときは、多量のぬるま湯をかけて解氷させてから、乾いたやわらかい布なので水分を拭き取って下さい。
- ・スクレーパ、解氷剤や霜取り剤などのケミカル用品は、使用しないで下さい。

◇アルミホイールのお手入れ

この車両は、アルミホイールを装着しています。お取り扱いにはご注意ください。

- ・週に一度くらいはスポンジ、中性洗剤を使って洗ってください。（工業用洗剤、磨き粉、クレンザー、金属タワシなどは傷付きの原因となるので使わないで下さい。）
- ・洗った後は十分に水洗いをして、乾いた布で水分を拭き取ります。
- ・長期間お手入れしないで放置しますと、表面だけでなく内部まで腐食してしまい、元の美しさを失う事になります。



主要諸元

車名	ヤマハ	
通称名	YP125FI	YP125E
全長	2,065mm	
全幅	740mm	
全高	1,240mm (1,210mm)*	
ホイールベース	1,500mm	
シート高	710mm	
乾燥重量	136.5kg	N.A.
乗車定員	2名	
最高出力	8.1kW/8,500rpm	
最大トルク	10.1Nm/6,500rpm	
エンジン型式	水冷4サイクルSOHC2バルブ	
気筒数、配列	単気筒	
圧縮比	11.0:1	
ボア×ストローク	53.7×54.8mm	
総排気量	124cm ³	
燃料供給方式	フューエルインジェクション	キャブレター
エアクリナー形式	湿式濾紙式	
点火方式	フルトランジスタ	
燃料タンク容量	8L	
エンジンオイル容量	1.2L	
始動方式	セル・キック	
潤滑方式	強制圧送ウェットサンプ	
クラッチ形式	乾式	
変速機	Vベルト式無段変速	
変速比	2.541~0.792	

*日本国内の保安基準に適合させる為、ウインドスクリーンを30mmカットしております。

フレーム形式		パイプバックボーン	
懸架方式	フロント	テレスコピック	
	リア	ユニットスイング	
キャスト		27°	
トレール		33mm	
ブレーキ	フロント	油圧式シングルディスク	
	リア	ドラム	
タイヤサイズ	フロント	120/70-12 51J	
	リア	130/70-12 59J	
バッテリー		12V-6Ah	
ランプ	ヘッドライト	12V55/60W	
	テールランプ/ブレーキ	12V5/18W	
	フラッシャーランプ	12V10W×4	
	メーター照明	12V1.7W×2	
	ハイビームランプ	12V1.7W	
	水温警告灯	12V1.7W	
	ナンバー灯	12V5W	
ヒューズ	メインヒューズ	30A	20A
	インジェクションヒューズ	10A	—
	ファンモーターヒューズ	5A	3A
	ヘッドライトヒューズ	15A	—
	シグナルヒューズ	10A	—
	イグニッションヒューズ	10A	—

青山永在，綠水長流……
留一片青山綠地給下一代子孫
地球只有一個，珍惜回收資源
-本手冊內頁使用再生紙印製-



YAMAHA

台灣山葉機車工業股份有限公司
中壢市中華路2段3號

TEL: (03)452-5151

<http://www.yamaha-motor.com.tw>

PRINTED IN TAIWAN
2004 .9-1*(中)